



令和3年度 校長だより

令和3年12月24日(金)

# 大野の風

No. 12

文責 松下 義彦

## 2学期を終えるにあたって

みなさんこんにちは。

今日で2学期も終わり、明日から冬休みに入ります。

今年は、みなさんにとってどんな一年だったでしょうか。

今年も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で様々な学校行事が中止になったり延期になったり、または、形を変えての実施になったりして、大変な一年間だったのではないのでしょうか。しかし、そのような中でも生徒のみなさんは、落ち着いた学校生活を送り、学習にも集中して取り組み、行事等においても実行委員を中心に生徒自らの手で成功させました。そのことを校長先生は大変嬉しく思っています。世の中がコロナ禍で大変な状況の中でも自分たちの「やるべきこと」または「やらなければならないこと」を自分たちで自覚し、やり遂げていくその行動力は大野中学校の伝統であり、誇りです。今現在、新型コロナウイルスの感染は落ち着いていますが、これから先どうなるかわかりません。3学期以降も今まで同様、感染症対策を行いながら「何ができるのか。」「どうやったらできるのか。」を考え、みんなで頑張っていきましょう。

さて、みなさんは、次のような言葉を聞いたことがありますか。

「な為せば成る な為さねば成らぬ な何事も な成らぬは人の な為さぬなりけり」

有名な言葉ですので聞いたことがある人も多いと思います。この言葉は、江戸時代後期の米沢藩主（現在の山形県）の上杉鷹山がいった言葉です。上杉鷹山は当時、財政難で苦しんでいた米沢藩を立て直すために様々な改革を行った人で、江戸時代の名君（優れた指導者）の一人とされています。

「為す」とは動作や行動をするという意味であり、この言葉の意味は、「努力すれば必ず達成できる。達成できないのは努力が足りないからだ」という解釈もありますが、ただ単に「努力をすれば必ず達成できる」ということではなく「何かを成し遂げるためにはまず行動し、諦めず、達成させるという強い意志をもちなさい」という意味だと校長先生は捉えています。行動したその結果を問うものではなく、「諦めない気持ち」、「達成させるという強い意志」をもつことの大切さを説いた言葉だと思います。

さて、みなさんは今年1年間、自分の目標に向かって行動し、諦めずに最後まで頑張ることができたでしょうか。途中でもうだめだと諦めた人はいませんか。途中で諦めては何も残りません。努力して最後までやり通せば、結果が出なくても経験が残ります。

今年の一年間が自分にとってどんな一年間だったのかを振り返り、来年が自分にとって最高の年になるように頑張ってください。

冬休みが終わると、3年生はいよいよ受験という大きな試練が来ます。

しかし、厳しい道を我慢すると輝く未来が見えてきます。厳しさをいやがったり恐れてはいけません。いつも、あきらめない気持ちをもってください。

1・2年生は今年の締めくくりをしっかりと欲しいと思います。

「一年の計は元旦にあり」といいます。これは、何事も最初に計画や準備をすることが大切だということです。年の初めに、新しい年の目標をしっかりと考えて欲しいと思います。

それではみなさん、良い年を迎えてください。新年も元気に会いましょう。

